

Organic Cotton Market Report 2016 Overview

Textile Exchange より、表題のレポートがリリースされました。本文は 76 ページに及びますが、ここでは拾い読みをしてレポートにいたします。

I . Market Review



オーガニックコットンのマーケットバリューは \$ 15.7billion、約 157 億ドル。日本円にして約 1 兆 9 千億円です。この金額は 2014 年にリリースされた金額から変わりません。オーガニックコットン市場の成長推移の遅さがよくわかります。

しかし、サステイナブルな経営を先導する企業とそうでない企業の差は徐々に埋まってきています。「大きくておなじみのブランドから、より小さくてより敏捷な会社まで含めて、オーガニックコットンを初期導入した会社は、市場での位置付けを変えつつあり、トップへの道をリードするためには誰にとってもよりハードな仕事になっている。」というような記述も見受けられました。

またオーガニックコットンに限らず、「オーガニックな暮らし」をする新しいトレンドがインドや中国で経済成長をけん引しているとのことでした。記憶に新しい、ダッカ近郊ビル崩落事故が「fashion revolution」の引き金となったこともよく理解できると思います。今までオーガニックコットンやフェアトレード、いわゆるエシカルな消費に目を向けなかった人々も、ブランドラベルの背景に思いをはせ、どこでどんな人たちが自分たちが来ている服を作っているのか、どのような環境で働いて賃金はどの程度なのか、を気にすることがより common になっているとあります。

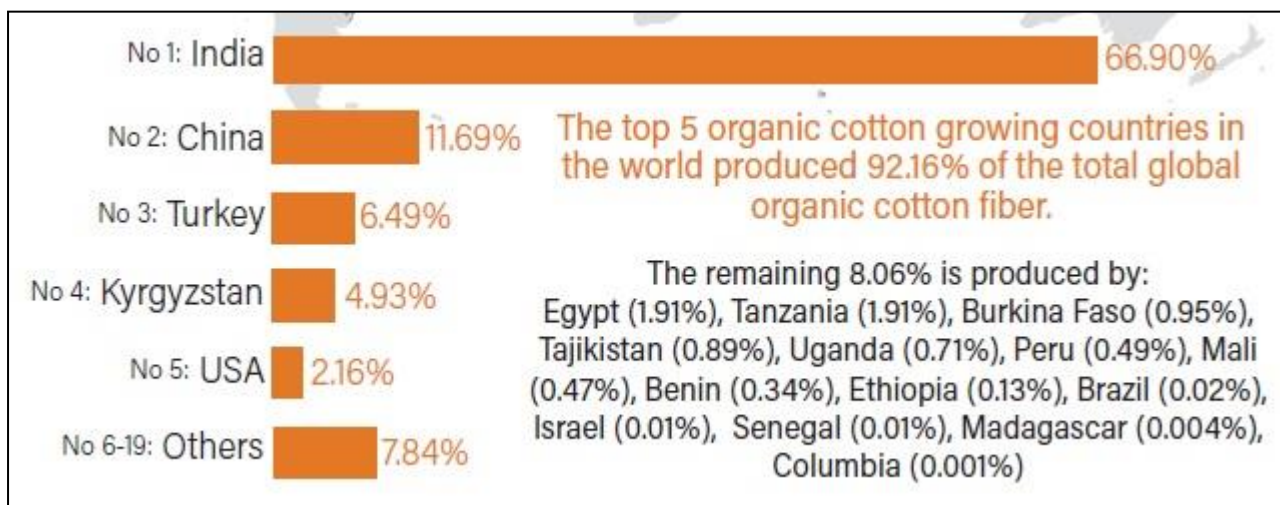
II . Farm Review



オーガニックコットンの生産量は 2013/14 比よりマイナス 3.8%でした。どうして下がってしまったのか読み続けたところ、下記のような記述がありました。

We understand this to be a reaction of the farmers, particularly in India, to the constantly depressed prices for cotton and, in contrast, a healthier market for organic food, spices, flowers, and pharmaceutical extracts.

特にインドではオーガニックコットンの原綿価格が低迷状態にあり、一方でオーガニックの食物やスパイス、花、生薬の抽出等の方が健全な市場だと農民が判断したということでしょうか。オーガニックコットンの生産量の66%を占めるインド（下記図参照）はマイナス13.4%、ランキング第三位のトルコもマイナス8.2%ですので、この二国の成長ダウンが大きな影響をもたらしています。

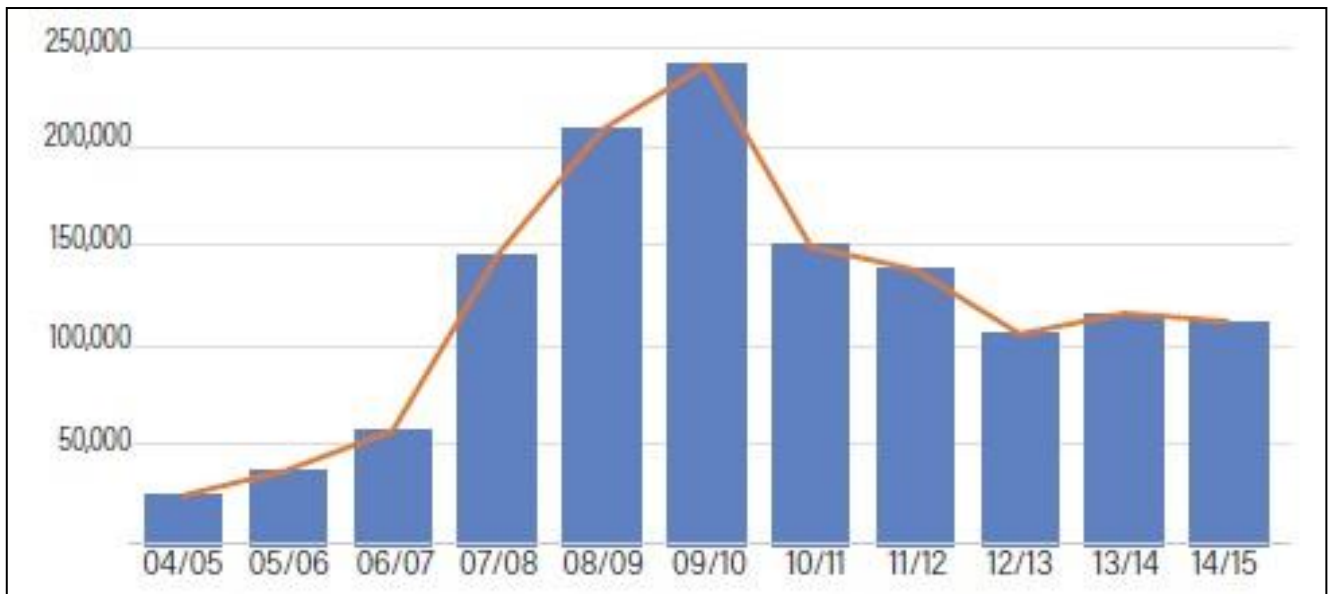


続いて過去4年間の生産国ランキングの図を見てください。

	2010/2011	2011/2012	2012/2013	2013/2014	2014/2015
1	インド	インド	インド	インド	インド
2	シリア	トルコ	中国	中国	中国
3	中国	中国	トルコ	トルコ	トルコ
4	トルコ	タンザニア	タンザニア	タンザニア	キルギスタン
5	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカ
6	タンザニア	マリ	ブルキナファソ	ブルキナファソ	エジプト
7	エジプト	ペルー	エジプト	ウガンダ	タンザニア
8	マリ	ウガンダ	マリ	ペルー	ブルキナファソ
9	キルギスタン	エジプト	ペルー	エジプト	タジキスタン
10	ペルー	ブルキナファソ	キルギスタン	ベニン	ウガンダ

5位以降はすべてアフリカ諸国が順位を埋めていることがわかります。

続いて生産量の過去の推移をグラフで見てください。



このグラフには記載されていませんが、本文には in-conversion land が 85,671 あるということなので今後の生産量の上昇に期待できます。

インドのコットン市場の実態

インド政府は最低保証価格を 100 ポンド (約 45kg) 当り 50 インドルピー (トン当り 7.42US ドル) 値上げするとしているにもかかわらず、インドでの一般綿の生産量は 2014/15 で 4.6% 下がりました。それは国際市場での原綿価格の低いことが原因となっています。また遺伝子組み換えコットンの疫病が、より高い農薬散布コストと労働コストの上昇をもたらすこととなりました。

インドの 157,721 のオーガニックコットン農家は NPOP の認証を受けていて、有機農業の畑は 276,736ha、そのうち 54% の 148,105ha がオーガニックコットンに使われています。タミルナドゥーとラジャスタンを除きすべての州で面積は増え、農家も増えていますが、オーガニックコットンの収穫量は右にもある通り若干減少しました。それは前述した、より利益率の高い農作物への栽培へ移行している兆候が見受けられます。

中国での国内需要の増加

右を見ると、中国の生産量が 7% 上昇していることが分かります。それは中国国内でのオーガニックコットンの需要が増加していることと大きな関係があります。いくつかの国際的なブランドが中国でのオーガニックコットンの畑の開拓を始めています。また酪農業でもオーガニックコットンの需要があります。それは以下の通り。

One factor fueling this growth is the growing domestic demand for organically certified cotton seed for use as cow fodder in China's organic milk sector.

オーガニックコットンシードがオーガニック・ミルクのための牛の飼料になっているようです。



トルコの状況

ニュースを見ていると分かる通り、現在のトルコは政治的にも経済的にも非常に不安定な状況にあります。そのような中で、トルコの伝統的なかつ力強いテキスタイル産業がコットン栽培を支えています。特記すべきは、シリアに近いアナトリア産地から質の良いエーゲ海産地へのシフト、ほぼ半分になっています。

IV. Top Users by Volume

右図は TE に所属する 89 社のうち、オーガニックコットン使用企業トップ 10 ランキングの企業一覧になります。

C&A については、二年連続でトップを獲得。昨年 9 位だった INDITEX は 4 位にランクイン。Nike、Decathlon、Carrefour、Lindex も長年トップ 10 以内にランクインしている企業です。

新しくランクインしたのは 10 位のベルギーのブランド Stanley & Stella。こちらは 100%オーガニックコットンのブランドです。



V. OCS & GOTS Top 10 Countries

農場から最終製品までの自主的な基準を策定している機関があります。The Global Organic Textile Standard(GOTS)と the Organic Content Standard(OCS)です。

GOTS は世界共通で使われるオーガニック繊維製品に対する認証です。GOTS が策定される以前は、オーガニック繊維製品に対する基準がまちまちであったため、ドイツ、イギリス、アメリカ、日本のオーガニック繊維製品の基準策定団体により、基準の統一がされたのが始まりです。2005 年に最初の基準が策定され、2008 年にマークが導入されました。TE によると、現在は世界 68 か国以上、3,814 件の認証工場/企業があります。

GOTS 認証では、原料が有機栽培されているかどうかだけではなく、製品にする際の染料や、漂白剤、環境負荷の少ない加工や廃水処理~~汚~~など、細かな規定があります。また、生産に関わる労働者の権利が守られているか、児童労働がなされていないかなど社会的な規範の部分も検査されます。

最終的な製品に含まれるオーガニック繊維の割合は最低でも 70%以上とされています。

OCS は 2003 年に設立された「Organic Exchange」が一部基準と名称を 2013 年に変更し、OCS 認証が誕生しました。以前の「OE 100, OE Blended」との一番の違いは、コットンに限らずすべての有機栽培された原料（食品のぞく）に対して認証の取得ができることです。95%以上の原料がオーガニックの場合は、「OCS100」、5%~95%の場合は、「OCS Blended」の認証マークを製品につけられます。

認証の際には、トレーサビリティ（原料の生産から製造、輸出入にいたるまで）が、いつ、どのような環境でつくっ



たか、製品の流れが明確であること)を保つため、認証マークを申請する企業だけでなく、すべての工程で関わる工場や倉庫などでも認証の取得が必要となります。TEによると、現在は世界 48 か国以上、3,126 件の認証工場/企業があります。

製品の成長率についてですが、GOTS は前年より 4%増加、OCS は若干 1%ほど減少したとあります。

VI. Managing Director より (抜粋)

今年のテーマは、「Driving transformation」加速する変革。

オーガニックコットンの生産システムは、市場の変革を創る上でキー・ソリューションになり、次にその市場の変革が強くて弾力のあるコミュニティを作り、そこで私たちは積極的に環境を守ることができると思っています。

これまでに透明性と正当性を持つ適切な基盤があれば、オーガニックコットンプログラムは、サプライチェーンの中でもっとも恩恵の少ない部分、特に小規模農家に、本物の恩恵を届ける、という理解が増えているのを見てきました。

本文では多数のリーダーたちがコットン産業に大きな変革をもたらした素晴らしいケースを見ることが出来ます。と同時に、私たちがもっとステップアップして企業内の構造に深くこの成功をあてはめていかなければなりません。そしてまだまだ変革し続けなければなりません。変革はビジネスの道筋になっていくのです。

しかし残念ながら、よりサステナブルな繊維の正当価格にはまだ到達していません。オーガニックコットンに限らず全体的な preferred fibers にも言えることです。

でもオーガニックコットンは確実に産業にポジティブな効果をもたらしています。

Patagonia は 1996 年に彼らのスポーツウェア商品全てをオーガニックコットン 100%にすることを開始しました。彼らはそれが大きなリスク伴うことを重々分かっていたにもかかわらず、そうすると決めたのです。しかし彼らは金銭的なリスクよりも、環境への利益が上回ることもわかっていました。

パタゴニアは今年、オーガニックコットンビジネスを開始してから 20 年を迎えます。彼らのリーダーシップに感謝するとともに、人々に気づきを与え、他とは違う経営をしたことを証明し、祝福を述べたいと思います。

La Rhea Pepper

-Managing Director, Textile Exchange